埼玉純真短期大学研究論文集　第 10 号　PP.115-117

サラスワティ外国語大学（STIBA SARASWATI）における２回目の交流

金　子　恵美子
（こども学科　専任講師）

2017年2月26日(日)～3月4日(土)の日程で,インドネシアのバリ島への2回目の研修旅行が行われた。今回は学生10名が参加し，4つの幼稚園，2つの大学の見学及び交流，日本総領事館への表敬訪問などを行い，とても充実した研修となった。サラスワティ外国語大学へは2015年3月に続く2回目の訪問となったが，今回の交流は特に学生同士が互いの国の文化を発表しあい，学生生活について意見交換しあうという内容で，学生同士が直接ふれあい，学びあえるたいへん貴重な研修となった。ここでは，サラスワティ外国語大学での交流の様子についてまとめる。

2月26日に飛行機での7時間半の移動を終えてホテルに到着した私たちを待っていてくださったのは，サラスワティ外国語大学のベティ先生と4名の学生の方であった。ベティ先生は，今回のバリ島での研修と本学が国際交流基金の助成を受けて計画した3月の日本での研修に向けて協力してくださっている先生で,今回のサラスワティ外国語大学での研修が充実した時間となるように準備をしてくださっていた。また，今回の研修の間ずっと同行してくださった4名の学生の方は，3月の日本での研修の際に本学に来てくださる予定になっている学生の方々で，今回のバリ島での研修では通訳や案内などを担当してくださり，バリ島に到着したその夜から帰国する日まで交流を深めることができた。

サラスワティ外国語大学での研修は,バリ島での研修の4日目（3月1日）に行われた。構内に入るとびっしりとバイクが停められている様子は一昨年と同様で，とても懐かしく感じられた。ヒンドゥー教の唯一神サンヒャン・ウィディ・ワソの化身として現れる神々のうちの一人,学問の女神の名である「サラスワティ」の名前を持つサラスワティ外国語大学は，インドネシアのバリ州デンパサールにある私立大学で，1994年に創立され，日本語学科と英語学科が設けられた大学である。系列校であるサラスワティ大学には多様な専門学部も設けられているが，デンパサールにあるサラスワティ外国語大学は外国語教育を専門とし，日本語学科では約300名の学生が学んでいるが，学生の多くは日中は仕事をしており，授業が18時30分から21時30分までの夜間に行われている大学である。

今回は午前9時に大学に伺い，サラスワティ外国語大学附属の幼稚園を見学させていただいたあと，大学での交流が始まった。交流には，サラスワティ外国語大学学長であるKOMANG SULATRA先生,日本語学科教員のベティ先生，メイダ先生に加えて，英語学科教員の先生方も参加してくださっており，私たちの訪問を歓迎してくださった。

交流会では，サラスワティ外国語大学の学生2名の方が，まだ1年生ということだったがバリ語と流暢な日本語とで司会をしてくださった。まず，サラスワティ外国語大学の学生3名の方が伝

統的な衣装をまとい，バリの舞踊を披露してくださった。目，首，手の動きがとても独特で，華やかな衣装でのバリの舞踊はとても素晴らしいものであった。その後，サラスワティ外国語大学学長のKOMANG SULATRA先生，本学学長の藤田先生からのごあいさつがあり，こうした交流の機会を持てたことへの感謝と長くにわたって交流が続いていくようにという願いが話された。続いて，サラスワティ外国語大学の学生の方からバリ島の文化についての紹介があった。とても印象的だったのは，バリでは地域や宗教のお祭りがとても大切にされており，地域でのお祭りには1人暮らしをしている学生も地元に帰り，伝統衣装を着て家族みんなで参加するという話であった。日本でも伝統的なお祭りや地域の行事を大切にしているところもあるが，経済や社会の変化によって家族の形態が変わってくる中で地域における人のつながりも変化し，地域の伝統的なお祭りや行事が少しずつ縮小され，また減ってきている現状もあるように思われる。経済や社会の変化とともに，家庭や地域のあり方も形を変えていくものではあると思うが，バリ島では家族や親族が同じ敷地内や地域に住み，助け合っているという話を聞くことが多く，自分自身の家族・親族とのつながりや地域でのつながりについて振り返って考えさせられることが多かった。

さらに，サラスワティ外国語大学の学生の方が日本のポップス曲をとても素晴らしい歌声で歌ってくださり，日本の曲を選んでくださった心遣いに嬉しい気持ちで聞かせていただいた。日本語学科の学生の方たちは，日本語を勉強するために日本のドラマやアニメもよく見るそうで，ドラマで使用されている曲やアニメについても詳しい方が多い。また，毎年5月に行われる文化祭では，歌舞伎や盆踊り，コスプレコンテスト，浴衣コンテストなど日本の文化に関する多様な内容が取り上げられているそうで，日本についてとても熱心に学んでいる様子と学ぶことへの積極的な姿勢が感じられた。

サラスワティ外国語大学の皆さんからの歓迎とバリの文化についての紹介へのお礼の気持ちも込め，本学の学生，教員からも本学での学生生活についての紹介と日本舞踊と日本の歌を披露した。今回の研修では，日本文化を紹介するということで浴衣を着て訪問し，日本舞踊の先生にご指導いただき，バリでも前日夜遅くまで一生懸命に練習を重ねた「さくら」を踊ったが，バリのダンスとはまた違う日本の踊りの様子と踊るときに手に持った桜の枝の造花にバリの学生の方たちは興味津々の様子でとても喜んでくださっていた。その後，日本の卒業式でよく歌われる「旅立ちの日に」と，手話を交えながらの「世界中のこどもたちが」の歌を披露した。今回の研修に参加した学生10名のうち7名は，保育園や幼稚園，施設での実習をすべて終えており，そうした経験を積んできていることからとても堂々とした様子で発表しており，短大2年間での学生たちの成長を感じられる機会にもなった。

互いの発表のあと，サラスワティ外国語大学の学生３～４名と本学の学生２名ずつの５つのグループに分かれ，「学生生活について」をテーマに話し合う時間が設けられた。話し合いの時間が始まると，最初は緊張した様子だった学生たちも自己紹介で互いの共通点が見つかるとすぐに仲良くなり，それぞれの日常生活，学んでいる科目，卒業後の就職，学校生活の楽しいところ・大変なところ，バリの若者の流行，バリの交通事情など多様な内容について楽しそうに話し合っている姿が見られた。話し合い後にはグループごとに話し合った内容についての発表が行われたが，国による驚くような違いの話が出てきたり，グループによってダンスを交えた発表などもあり，とても楽しい発表となった。本学の学生は，サラスワティ外国語大学の学生の多くが仕事をしながら学んでいること，日本語を中心に学びながらさらに英語やインドネシア語も勉強すること，先輩と後輩で勉強会を行っていることなどを聞き，サラスワティ外国語大学の学生の学習への熱心な姿勢を強く感じたようである。また，多くの学生がインスタグラムをやっていること，クラスの仲間と過ごす時間が楽しいことなどはどちらの国でも共通しており，国によって異なる部分と変わらない部分の両方を感じることができた研修となったようである。

交流会の最後には，サラスワティ外国語大学と本学との間で今後の交流に向けて提携を結ぶこととなり，調印式も行われた。今回の研修は，学生にとってはバリ島の教育や文化，生活について同じ世代の人たちから直接教えてもらうことができ，またバリ島の学生と実際に話し合い，ふれあうことで体験的に理解することができる機会になったようである。また，自分自身の育った国の文化や生活についても伝えることで，改めて自分自身や自分の国の文化について考える機会にもなったようである。学生からは，今回の経験を通して学んだことを幼稚園や保育園で出会う子どもたちにも伝えていきたいという声も聞かれ，今回の研修がとても充実した学びとなったことが感じられた。国は違っても若い世代の持つ好奇心とエネルギーは同じように強く，心からふれあうという交流につながったように感じている。